

『練習艦隊の蒔いた種』(1)

平 間 洋 一
(一海佐)

敵冬の候、いかがお過ごしでしょうか、昨年中は種々御支援・御厚情を賜り、誠に有難度う御座居ました。

お蔭様にて遠洋航海の残務整理もほぼ終了し、二月十六日付で呉地方総監部防衛部長を拝命し、勇躍任地に着任致しました。

アスマニヤナンのノンビリムードの南米病が完治せぬのに、身に余る大役ですが、ベストを尽くしたいと考えていますので、今後とも変わらぬ御支援御指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、練習艦隊を去るに当って、当艦隊に賜りました御支援・御厚情にお応えするためにも、「成果並びに所見等」を含め報告するのが海軍式の礼儀と考えますが、正規の報告は、いずれ改めて致すこととし、今日はとりあえず前回に引きつづき、婦女子供向きのエピソード、特に前回掲載致しました練習艦隊が蒔いた種、「友情の種から平和の花が咲く」というコナー氏の詩に関連した友好親善のエピソードを御紹介致します。

一、練習艦隊の銀光ガイドを終えて

マサコ・ビルディ

本文は、練習艦隊がニューオリズ訪問時、市内案内に参加されたボランティアの主

婦の方(日本生れの戦後派)が、乗員の市内見学案内をされた時の感想、特に礼儀作法・規律正しさに心打たれた感動を綴ったものです。

八月九日から三日間の予定で、ニューオリズを訪れていた海上自衛隊員の市内観光のガイドをする事になった時、まず頭に浮んだことは——この暑いのに、四時間も五時間外を出歩くなんて、大変だ——ということでした。それに四十人も見知らぬ人達を前にして、一体何を話したらよいのかという戸惑いと、とにかく早く無事に終って欲しいと心の中で思っていた私でした。ところが、実際に蓋を開けてみると、あつという間に三日間が過ぎ去り、もう終ってしまったのかと残念な気持ちで一杯です。そして、歓迎するべき側の私達が、逆に歓迎されてしまった感じが充分でした。

又、バスの中で隊員の人達が話していたことに、あの真白な制服を着ることが出来るのは、陸にあがった時だけで、船の中では、みんな作業服に着替えて、それぞれの仕事をなさるのだそうです。そして門限があり、若しも十二時前までに帰らなかった場合は、次の寄港地での外出は絶対禁止な

出しませんが、いかがですか、恐らく結構楽しい頃だと推察致します。当グアヤキル市で生活している私などは毛穴が開いているので、今日日本に帰ったらふるえあがる事でしょう。

と素晴らしいことだろうと思えます。その時こそ、ニューヨークの詩人コナー氏が練習艦隊に贈った詩のとおり「練習艦隊の蒔いた種から本当の花が咲く」ことになろうと思えます。

(一) ザビエル・平八郎君の礼状

平間大佐殿

その後お元気のことと思います。私共も元気です。グアヤキルの天気は変わってしま

い、とても暑くなりました。私の父は、あなた方が出港してからずっとさみしがっております。私も余りにも短かい滞在を残念に思いました。そして将来再びあなた方がエクスアドルに帰ってくる事を希望しております。

あなた方も非常にお疲れになった事と思えます。しかし同時に、ここエクスアドル以上に、あなたの事を想っている御家族や御子様に会われ、さぞ満足している事と思えます。

私の母は盲腸の手術をしましたが経過は良好です。そしてあなた方を見送れなかつたことをとても悔んでおります。あなた方から頂いた好意に感謝しております。

あなた方をいつも思っている、あなたの友達から

一九八二・十二月・十五

ザビエル・ハイバチロ・カワベ

(二) 河辺末雄氏からの礼状とクリスマスカード

拜啓

今日は十二月十四日赤穂浪士の討入日映画の光景では雪が降っている場面を想い

のだそうです。それを聞くと、まるでシンデレラのような話だと思つたものです。船の中の食事は朝食は大体御飯にお味噌汁、それに卵か海苔とおしんこが献立なのだそうです。夕食は四時と聞いてびっくりしたものです。しかし一応八時には夜食が出るのだそうで何となく安心しました。私は又、単純に海の上にとつとつというのだからさぞかし美味しい魚が食べられるのだろうと考えていたら、何と期待に反して肉類が圧倒的に多いのだそうです。初日の市内観光の後、バスから降りる時に、バスのステップの所で、きちんと起立して敬礼をしてから、どうもありがとうございます」と四十人近くの隊員からひとりずつ云われた時には、本当に感激してしまいました。その内に、自然に私の右手も敬礼しているのにはと気付いて、自分でなんとなく照れ臭くなったのを覚えていました。

三日目にガイドの後、船の中を見てもらつた時のことでした。机の上に家族の写真らしきのが置いてあるので、「これ御家族ですか」と尋ねたところ、ひとりひとりこれは誰々、これは誰と、本当に懐かしそうに説明してくれた時には胸を打たれました。六ヶ月も経ってから日本に帰ると、まだ二・三歳の子供は「お父さん」と云つてなついてくるまでに時間がかかるんです、と話してくれた隊員もいました。又、私のように船のことなど全く知らない者にもわかりやすく、丁寧に説明をして下さいました。今まで正直のところ、自衛隊に対して関

大量に得たことは、今後彼等に財産として残るでしょう。また、艦隊出港時には「はたるの光」の演奏の段階で、遂に湧み上げてくる涙を押えること出来ず、大軍艦旗に別れをさせて頂きました。艦隊出港後二週間程仕事にならず、朝な夕なに軍艦マチをかけ、三日間の出来事有りし日の僚友、班長、台長、砲術士、砲雷長、副長、艦長、隊司令等々、次から次へと浮かび想い出されました。海上自衛隊に籍を置いたことのある私にとって、艦隊に逢えたことは一大事の感激でした。この一大事は夢々忘れることなく、全ての記念品とともに大切に保管させて頂きます。

先日「東郷」No. 一八二を拝受しました。大変有難度う御座居ました。早速家族に見せたところ紙面に載るのさえ晴がましい、上大々の写真入りの紹介尚更恐縮致しました。息子平八郎に平八郎と言う名の由来を繰り返すと共に、海の男の紳士振りひいては海上自衛隊の人は斯様なものだを教えておきました。

エクスアドルでは日本人移民は非常に少なく、且つエクスアドル人と日本人の混血子弟は数える程度です。息子平八郎、願わくば当国海軍に奉職してくれること期待しておりますが、子供の意見も尊重せねばならぬでしょうから、あの手この手で説得します。海軍に奉職する事を通じ、将来日本とエクスアドルの橋渡しでもしてくれたいと思っております。

近い将来、家族揃って日本訪問できるようにしよう。東郷神社参拝そして横須賀、舞

鶴、江田島等を是非訪問したく思っております。水兵卒とは言えどもエクスアドルに海上自衛隊員がいると言うこと御記憶願ひ、どなたか当地に渡航される折には、また当地で困ったことあらば、私を訪問して下さい。精一杯お手伝いさせて頂きます。

では司令官初め艦隊の皆様方々にも宜敷くお伝え下さい。再会出来ることをお待ちしております。

敬具

第十護衛隊「はるさめ」

元海士長 河 辺 末 雄

なお、河辺末雄氏の住所及びクリスマスカードは次のとおりです。

Seo Kawabe

P.O. Box 7293 Guayaquil, Ecuador

